

「神のタイミング」 一使徒行伝講解説教 22-

サムエル記下 5章 1節～5節
使徒行伝 9章 32節～43節

説教 本庄侑子 牧師

イエス・キリストと出会って洗礼を受けたパウロ。教会に受け入れられるも命を狙われ、故郷のタルソへと逃れていきました。そしてそれを最後に、しばらく姿を消します。次にパウロが登場するのは数年後のことです。

せっかく回心したパウロを、神様はなぜ数年間も埋もれさせたのかと不思議に思います。しかし、神様には神様の順序がある。パウロがタルソにいる間、神様は何もしておられなかったではありません。むしろ、神様はパウロにおいても、教会においても、準備を進めておられたのです。

今、大阪教会は主任牧師を求める祈りを重ねています。神様、まだですか？もどかしい思いになることがあります。人生においても、ずっと祈っているのに答えが与えられず、もどかしい思いになることがあるでしょう。しかし、神様のタイミングは的確です。何も起こっていないように思える時も、神様は豊かに働いておられます。神様のご計画を私たちに受け取らせ、私たちを用いて前進させていくために、私たちが備えてくださるのです。

パウロが連れ戻され、異邦人伝道へと踏み出していく前に、神様は使徒たち、特にペテロの目を開かれました。今日お読みしているのは、まだ目が開かれる前のペテロを通してなされた二つの奇跡物語。どちらも、ルカによる福音書に記された出来事と、よく似ています。ルカによる福音書と使徒行伝は同じ著者によって記された書物です。あえて福音書と重ね合わせるようにして、今日の物語は記されているのです。あの時、イエス様がなされた出来事が、この時、私たち教会を通して起きていた。皆がそう思われたから、そのように記したのでしょ

う。教会の頭はイエス・キリストです。名だたる伝道者ではない。キリスト者の人生の主人も自分ではありません。イエス・キリストです。この後、大きな成長を遂げていった教会は決して忘れなかったのでしょうか。パウロが表舞台に帰ってきたからイエス様の御業が前進したのではない。ペテロの目が開かれて立派になったから奇跡が起きたのでもない。教会はずっと教会だった。イエス・キリストの完全な教会だった。私たちはそこにいた。イエス様に共に用いていただいた。

私たち大阪教会もイエス・キリストの教会です。良い牧者が遣わされたら前進できるのではありません。自分自身においても、もっと成長

したら初めて神様に用いていただくわけではない。私たちは洗礼を受けた時点で聖霊の宮とされたのです。私たちの出来不出来ではなく、イエス・キリストの十字架と復活にあらわされた神様の御力によって教会の枝とされ、今も用いていただいているのです。

アメリカの大学を卒業して日本に帰ろうという時、通っていた教会の牧師から青年会のリーダーになってほしいと言われ、悩んだことがあります。もう日本に帰るし、私はリーダータイプではない。そう断りました。でも牧師が折れない。もう一度祈り直しました。すると、卒業を一年延期して引き受けようという思いへと変えられていきました。でも、後悔しました。自分の無能さがはっきりしてしまう。怖くて仕方ありませんでした。

そんな時、ある人がおっしゃった。「神様が今の侑子さんを選んで召されたんだから。今の侑子さんを用いたいよ。」そして本当にその通りでした。私が何ができたからではない。でもあの時の私を神様が用いてくださいました。欠けをも用いてくださった。欠けを補う仲間が加えられて、みんなと一緒に用いていただきました。

去年の今頃、代務主任牧師としての召しに恐れおののき、聖堂で祈っていた時、そのことを思い出しました。力もない。経験もない。でも、神様が用いようとしてくださっているのなら、このままの私をさし出そう。そう思いました。

今日まで色々なことがありました。不思議なことですが、時を経るごとに肩から力が抜けていくのを感じてきました。主任牧師を欠いていたとしても、私にどれほど欠けがあろうとも、今も大阪教会は完全な教会。イエス・キリストの教会だ。私たちは確かにそこにいて、一緒に用いていただいている。そのことが本当によく見えるようになってきました。

そうして神様は、パウロを遣わす前に、教会の信仰を整えられました。イエス様への信仰にしっかりと立たされた上で、教会はパウロを迎え、大きく前進して行ったのです。私たちも教会です。神様は今のあなたを召しておられます。イエス様は今も、私たちをご自身の器として前進しておられます。今週もイエス・キリストの教会として一緒に歩む中で、一緒に豊かに用いていただくのです。

(記 本庄侑子)